

新しい生活、その不安ね。
大丈夫よ、全然、大丈夫よ。
いま考えてもしかたないじゃない。
何かあったらその時に考えればいいのよ。
本当にそんなものよ。
それで意外とうまくいくのよ。

リトルミイの名言より



も く じ

- | | | |
|-----------------------|--------|--------|
| ・「今こそCAPを」 | p. 2~3 | |
| ・事業部より | p. 4~ | |
| ・ | p. 5 | |
| ・ | p. 6~7 | |
| ・インフォメーション & CAP 活動報告 | | p. 8~9 |
| ・事務局からのインフォメーション | | 裏表紙 |

今こそCAPを

私たちがCAPのワークショップ活動に取り組む中で日々実感する事があります。それは、活動を通してワークショップに参加した子どもたち一人ひとりが着実に成長し、自信を身に付けているということです。自信を失いかけた子どもたちが自分の存在を肯定できる瞬間に立ち会うたびに、私は心を動かされ本当にこの活動をやってよかったと感じます。現代の日本社会は、さまざまな事柄が「良いか悪いか」「正しいか間違っているか」で判断されがちです。子どもたちも例外ではありません。まわりから評価されるプレッシャーの中で子どもたちは生活をしています。誰かに勝つことではじめて自信が持てる競争社会の中では、なにか特別なことができなければ自信を失いやすくなります。人と比較することで「自分はダメなんだ」と思い込んで新しい一歩を踏み出せなくなっている子どもたちも数多くいます。このような息苦しさを感じて自信を失っている子どもたちに対して、私たちのような利害関係のないおとなたちが関わって「どの子どもも大切だよ、誰でも安心して自信をもって自由に生きる権利があるんだよ」という当たり前のことをあらためて伝えることが大切なのだと思います。そして、この当たり前が伝わった時、本来誰もが持っている生きる力を取り戻せるのだと思います。

これまで出会った子どもの中で、やりたくないことを断りきれずに周りの友だちに合わせて我慢している子がいました。ワークショップの中でその子が「別に人に合わせなくても私は私なんやな」と涙を流していった時、長い間抱えていた息苦しさを自由になれたんだなと思いました。このような変化は本人の周囲にも起こります。クラスの中で溶け込めていないように見えた男の子がいましたが、ワークショップを終えた後、周囲の子たちがその子の話に興味を持って聞くことができるようになっていました。その子自身も周囲の子が言うことに対して、相手の反応を待って応答できるようになりました。この瞬間、クラスの雰囲気は優しく溶け合っていくように感じました。このような本来持っている生きる力が息を吹き返した瞬間に立ち会うとき、私はやはりCAPの取り組みは確実に効果があるのだと実感します。CAPのプログラムでは、「安心」「自信」「自由」という大切な権利について学びます。この3つの言葉は原本では、「SAFE（安心）」「STRONG（自信）」「FREE（自由）」となっています。このうちSTRONGは直訳すると強さですので、CAPについてあまりご存じない方は戸惑うかもしれません





ん。しかし、私は STRONG を自信と訳していることに大きな意味があると感じています。ここでいう強さとはどのような強さでしょうか。「強い」「弱い」とは、単に力の強さや弱さ、気の強さや弱さではなく、生きる力の強さ、弱さなのだと思います。これまで、競争社会の中で自信を失い、生きづらさや生きていく力の弱さで苦しんでいる多くの子どもたちに出会ってきました。このような子どもたちに必要なのは「わたし」は「わたし」でいいんだ」という自信、つまり、生きていく力の強さなのです。自信を失いがちな子どもが多い時代こそ、CAP の活動が必要とされるのではないでしょうか。私たちの団体のこれまでの経緯を振り返ると、1995 年には阪神大震災、1996 年には堺市内で 0-157 の犠牲者が、1997 年には子どもが加害者にも被害者にもなる事件が起きました。これらの悲しい現実直面して 1997 年、堺市内の全ての子どもたちに CAP プログラムを届けたいとの思いで団体を立ち上げました。立ち上げから 18 年ほどで子どもの遊び方や時間の使い方、情報活用方法は大きく変わりました。しかし、子どもの生きる力や安心し、自信を持って、自由な気持ちで生きる力は変えてはいけません。自信を失う子どもたちが多い今の時代こそ、CAP の活動が必要なのだと思います。

北野真由美

